

臨床検体使用に関するお知らせ

『 研究課題 直腸脱患者に対する術式選択、手術成績に関する後方視的検討 』

【研究の背景および目的】

高齢者に多い直腸脱に対しては、手術が唯一の治療法となります。

そして手術はアプローチの方法によって大きく2つに分かれます。

その一つとしては、治りは良いですが体に負担の多い開腹手術（腹腔鏡で行うことが多いです。）ともう一つとしては、治りは開腹術に劣りますが、体に負担の少ない経肛門手術（おしりから行う手術）があります。

直腸脱は高齢者に多いため、治りが良いからといって直腸脱の全てに開腹術を行うことは患者さんに過剰な負担をかける可能性が生じます。

そこで東邦大学医療センター大森病院一般・消化器外科では、過去に行ってきた直腸脱手術の再発率や合併症などを検討し最適な術式の選択を行うことを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、患者さんの状態と直腸脱の病態を考慮に入れたオーダーメイドの治療を提供することにつながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです

2008年4月から2021年9月に東邦大学医療センター大森病院一般・消化器外科において直腸脱の手術を受けた症例を対象とします。

診療録（カルテ）から抽出した情報を解析することにより調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することはありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡ください。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

一般・消化器外科

職位・氏名 講師・栗原 聡元

電話 03-3762-4151 内線6530